

夢洲など護岸かさ上げ

写真は日本経済新聞 2 月 6 日夕刊。関西地方を直撃した 18 年 9 月の台風 21 号を受けて設置した高潮対策検討会がまとめた試算によると、大阪湾岸部の夢洲などは、5～8 ㍎の波が到達する可能性がある。大阪湾岸部の人工島の災害脆弱性、とりわけ万博会場の「夢洲リスク」を示すものだ。現在、方法書がとりまとめられている大阪万博の環境アセスメントにも影響する問題である。同紙の翌 7 日朝刊が、より詳しく伝えているので記事を紹介しておく。

大阪市は 2020 年度から、大阪湾岸部の高潮対策に乗り出す。25 年国際博覧会（大阪・関西万博）の会場で、カジノを含む統合型リゾート（IR）の予定地にもなっている人工島・夢洲などの護岸や岸壁で 1～3 ㍎のかさ上げ工事を実施。市は 20 年度予算案に 2 億 8700 万円の費用を計上する方針。大規模プロジェクトの成功へ向け、過去最大級の台風への備えを固め、インバウンド（訪日外国人）などの不安を解消する。

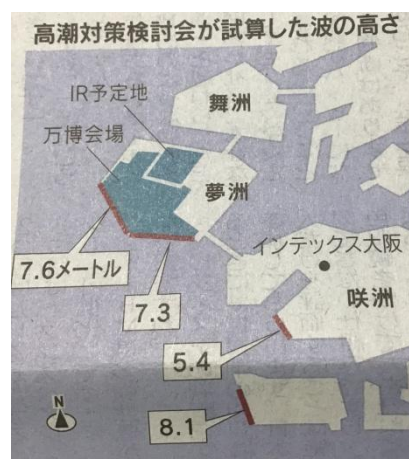
大阪市は 20 年度から咲洲の工事に着手し、夢洲もかさ上げに伴う工事設計を始める。夢洲は万博の工事が本格化する前の 22 年度までの完成をめざし、咲洲や舞洲は 27 年度までに工事を終える予定だ。

市が高潮対策を強化する背景には、大阪のベイエリアの災害対策への危機感がある。18 年 9 月の台風 21 号では、夢洲や咲洲の護岸が破損し、海沿いの一部が浸水するなどの被害が出た。

このため、市は高潮による被害を想定。1959 年の伊勢湾台風クラスの台風が、18 年の台風 21 号のコースで大阪湾に接近した場合、夢洲や 19 年 6 月の 20 カ国・地域首脳会議(G20)の会場となった咲洲の岸壁に、5～8 ㍎の波が到達する可能性があるとして試算した。

浸水は咲洲で最大 3 ㍎、スポーツ施設やキャンプ場がある舞洲は最大 2 ㍎と想定。夢洲の万博会場や IR 予定地は浸水しないものの、護岸付近が約 1 ㍎浸水するとの結果が出ており、ハード面での対策が必要と判断した。

大阪府も、市町村に避難ルートなどを盛り込んだ住民向けハザードマップの見直しを促している。万博の来場者は期間中、約 2800 万人を見込んでおり、浸水への「備え」は万博の成功に欠かせない。市の防災担当者は「来訪者が増える 25 年までに、ハード、ソフト両面の備えを万全にしたい」と話している。



(2020 年 2 月 12 日)